

年 頭 の 辭

— 昭 和 29 年 を 迎 う —



伊 藤 隆 吉*

謹んで新年の御祝詞を申し上げ、先づは大方諸賢の御多幸をお祈り申し上げます。

輝しい新春に当つて各位におかれても心あらたまり清新の氣にみちて御仕事にかかれたことと拝察する次第であるが、困難を予想される昭和 29 年の

年頭に際し業界の既往を顧み併せて希望と覚悟を新たにする意味で年頭所感の一端を申述べたいと思ふ。

顧りみれば昭和 28 年は世界的な不況の年であつた。我国鉄鋼業においても生産高は漸増したが輸出高は前年に比し急激に低下し、国内消費面が比較的堅調であつたため幸うじて大過なくこの間を糊塗し得たといふことができる。昭和 27 年、鉄鋼は我国での輸出記録の王座にあつたが、昭和 28 年はこれに引続きあらゆる面から輸出の振興に努力が払われたにも拘わらず製品価格、取引形態其の他の関係で不調の一途を辿らざるを得なかつた。すなわち欧州ではマーシャルプランによる設備が漸く完成稼動を開始しつつあることと、シユーマンプランによるカルテルの問題等で欧州より東南亜細亜、南米等の地域に安価な鋼材が進出し来り、一方米国もまたこの方面の鋼材輸出に力を注いで来た現状である。まことに先行は憂うべき状態である。本年も勿論あらゆる方面に亘つての努力がつくされると思ふが輸出の困難性はますます深刻化するものと予想せざるを得ず、まことに苦難の年たるべき要素が多い。

我々はどうしてこの苦難を克服するか。

いつも言うことながら資源の乏しい狭溢な国土に 8700 万という尅大なる人間が生活しなければならぬことに思を致すとき、一方において食糧をはじめ原材料の輸入を確保してゆくことは我国にとつて不可避の命題であり、又反面そのために輸出力の

* 会長

増強を図ることが鉄鋼は勿論全産業界に課せられた至上命令である。

鉄鋼輸出振興の条件としては 1. 価格の低廉と 2. 品質の優秀ということが重要な先決問題である。そのためには一般に、設備の合理化近代化、作業の標準化、能率改善の合理化、原単位の節減等のいわゆる経営の合理化が要請されるが、我国製鉄原価の構成上原料の占める比重が極めて大である点にかんがみ、内外諸原料の綿密な価値計算に基いて合理的購入計画と原単位の切下げが特に重要な意義を持つてくるとを指摘したい。又技術面における歩留の向上、燃料消費の節約、作業方法の改善等も未だ大いに推進の余地ありと思われる。これらに対しては理論より実益の面を尊重する態度で躊躇せず断行してゆくべきである。かかる見地から本誌“鉄と鋼”発表の論文も理論もちろん結構であるが、より現場の生きた實際研究の発表に一段と力を入れてゆきたいと思うのである。

本誌も逐年発展のあと著しく本会の目的達成に大きな貢献をなしつつあることは業界のためまことに喜ばしいことであつて、各方面の御援助を感謝している次第である。協会としても昨年は製鉄技術の向上、鉄鋼製品の品質改善に重点を置き、これが目的達成のため講演会、研究部会の開催又學術技術奨励のため功績者の表彰、研究資料の編集発行等を行つたが、特に研究部会にあつては通産省重工業局及び日本鉄鋼連盟と協力して各専門部門にわたり活潑に会議を開催し、協会目的達成に真摯な努力が致されたのであつた。業界多難を予想されるとき、協会としても本年は更に覚悟を新にし、これらの有意義な催や事業をますます積極的に推進して行きたいものと念願している。ここに重ねて各方面の御支援を願つて止まない。

蕪雜ながらこれをもつて年頭の御挨拶とする。